

お国自慢交流会を、老人会の方々を対象に開催する

私は九州大学の留学生で、平成26年10月に来て、平成30年3月には中国に帰る予定である。日本語にも慣れて、糸島にあるため池の鯉攻め行事などにも誘いがあり、楽しく過ごしている。もっと多く、留学生と地域の人との交流があると日本を知るために良いと感じている。幸い、大学も留学生が地域の中に溶け込んでいくことを後押ししてくれるので、地域づくりの知り合いも増えてきた。その人たちも留学生にもっと日本の生活や文化を知ってから帰国してほしいと言っている。この話を皆でしていたら、夢アイデア募集のことを知り、そこで私は、地域の人と留学生が交流する仕組みを提案してみたいと思う。夢アイデア交流会までにできたら一度開催したいと考えている。

1. はじめに

九州大学は、2020年度に3,900人の留学生受け入れることを予定している。平成29年5月1日現在、在学中の留学生数は2,201人に達していた。そのうちの86%がアジア出身の留学生である(9割は中国の留学生)。日本の大学のグローバルな展開に向けて、大学も地域も変わっていかざるを得ない。例えば、九州大学の周辺地にある糸島市では高齢化が進んでいる中、若者も続々大都市に出た。こういう状況を受けて、糸島市を活性化すると同時に、地域の若者の流出を食い止め、大都市から呼び戻すことにまず取り組まなければならない。

現在、九州大学の新伊都キャンパスの周辺地域住民と留学生との交流活動が頻繁に行われているが、長続きする活動はほぼ存在していない。なぜならば地域住民と留学生との交流活動において世代間と専門分野間での差異・落差との課題が解決していないためである。この課題を解決していくため、「お国自慢交流会」という新しい形を持つ交流活動を提案したいと思う。つまり、公民館などの公共施設と空き家を活用し、地域在住のお年寄りを対象に、お国自慢するなどの軽い話しから始まり、徐々に地域交流の輪を広げていく。最後に、「交流を創出し地域活性化を促進するフォーム」を作りたいと考える。

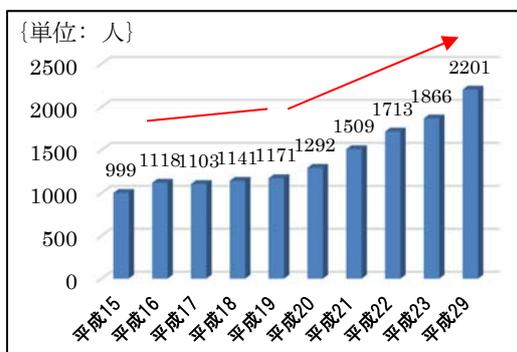


Fig.1 九州大学で学ぶ留学生数の推移

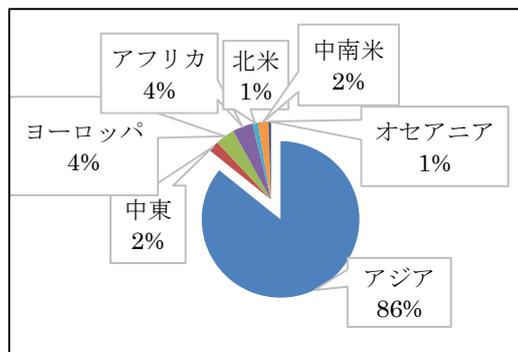


Fig.2 外国人留学生数

2. 概略

- *開催時間 :2017年以内に実施したい
- *イベント時間 :2時間程度
- *会場 :糸島師吉公民館(師吉邸、可也山登山口のそば)
- *参加者 : NPO、ボランティア、老人会の方々、留学生

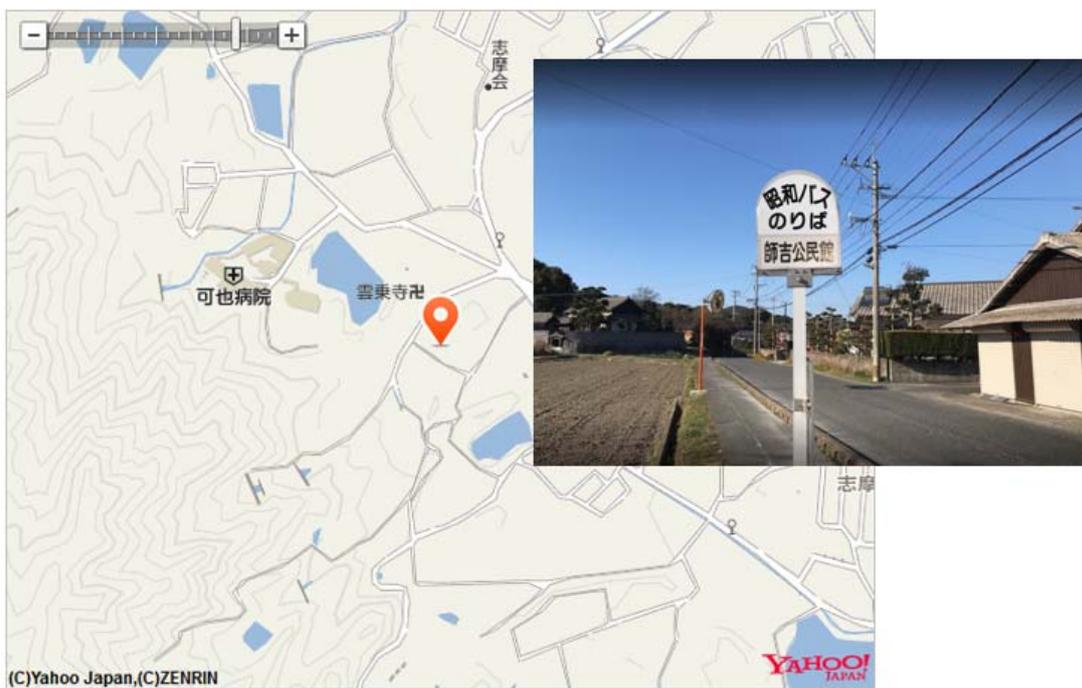


Fig.3 糸島師吉公民館(前原駅から船越・野北線の昭和バスが通る)



Fig.4 糸島鯉攻め行事参加写真(左下が著者)

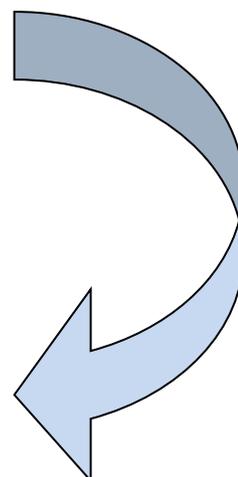
3. 内容

3.1 留学生から(例:中国の留学生)

- ニーハオ、ダジャーハオ、など簡単な中国語を教える
- 好きな漢詩を一つ書いて解説する(絵を書いて解説すること)
- お国代表的な食べものを教える
- 最後の時間帯では和やかに意見交換などをする



Fig.5 糸島師吉公民館写真



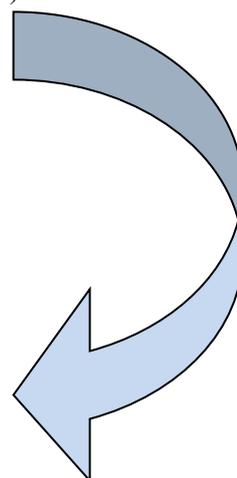
ここでお国自慢会!

3.2 地域住民から

- 糸島の祭りの話を教えてもらう
- 好きな日本の詩を一つ書いて解説してもらう(絵を書いて解説すること)
- お国代表的な食べものを教えてもらう
- 最後の時間帯では和やかに意見交換などをする



Fig.6 糸島2016山笠祭りに参加した九州大学外国留学生と日本人学生(著者は写真の中の前列の一番右にいる)



お祭り楽しかった!

4. お国自慢交流会のこれから

- 地域交流の輪を広げる
- より多くの留学生に良い思い出を作ってあげる

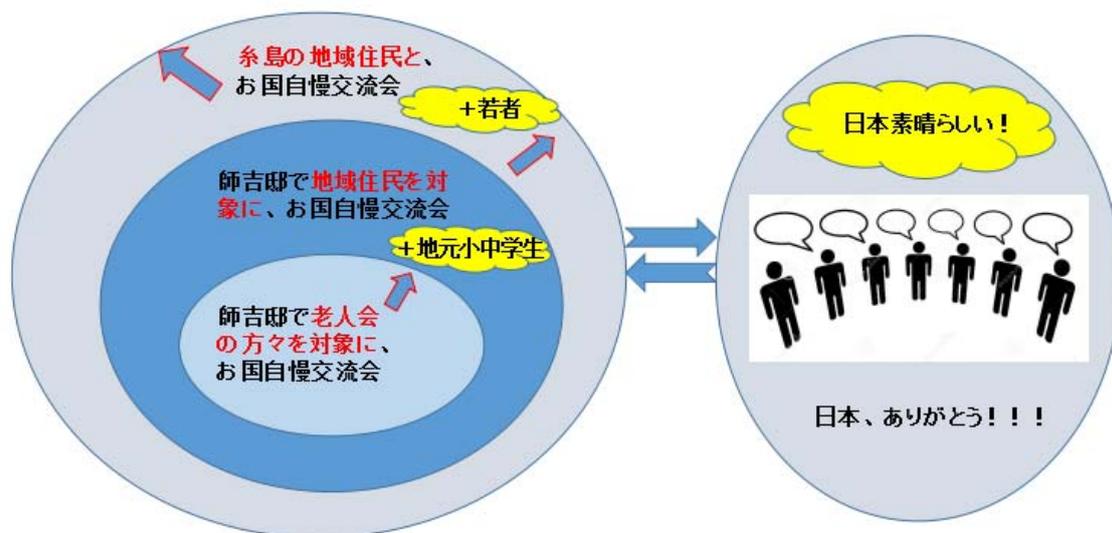


Fig.7 将来の展望

追記：夢アイデア交流会までに開催したい希望が実現したので、以下に簡単に報告する。地元の皆さんの協力で、11月25日、留学生との交流の集いが開かれた。集まった方々は、九大の先生、九大への留学生（中国、ケニア、ウガンダなど7名）、師吉老人会、いとしま市民大学、地元の協力者、そのほか関心ある方々、総計27名だった（老人会での交流会に代わって有志者の集いとなった）。

自分は、ふる里である海南島の紹介と漢詩について話した。地元の方からは、留学生に向けて俳句や川柳などをされた。その後、このような催しについての意見交換が行われた。

11月25日のお国自慢交流会の結果と反省

- 時間が足りず、漢詩をどこまで楽しんでもらったかわからない。
- 日本語で、俳句、川柳の説明は全て理解できない。
- 留学生相手に、難しい内容を日本語で話すのは意味がない（通訳がいる）。
- 意見交換—留学生側から
- 農業体験、言葉の交流、山登り、スポーツ、料理、お花

- ・ アニメ、茶道、お花、折り紙、職人（焼き物のなどの体験）
- ・ 着物の着付け、よい思い出づくり、地域との交わり
- ・ ホテルが少ない、宿泊がふえるとよい、バスの便が悪い。

それらの要望を踏まえて、交流を進めるとよいと思う。

これからの進め方について

1. お国自慢交流会で以下のことが分かった。“留学生ももっと深く日本を理解したいと思っているが、きっかけ作りが大切だ。地域の人びとも同じ考えで、受け入れる気持ちがあるのにきっかけがない。”

2. そこで次を目標にやっていったらよいと思う。

”国際村”作り(言語の壁を乗り越え、思いをもって、交流)。

定期的に地域交流活動が行われる気楽な交流環境。

“交流”とは誘われたら行く、頼まれたらやる。

共通の考えを大事にし、地域の人々も留学生も積極的に新しい一歩を踏み出す。

3. 終わりに、

楽しんで IN NIPPON. KYUSHU ♪♪♪

帰国までに残りわずかだが、積極的に交わったおかげで触れ合うことができた。国際親善という掛け声があるが、私も留学した一人として、帰国後も役立つよう頑張りたい。

謝辞

11月25日のお国自慢交流会の開催を応援、サポートして下さった皆様（特に夢農園の皆様）、本当にありがとうございました。また、お国自慢会交流会の準備で、個人都合上で全力に入れられず、関係者の皆様にお詫びを申し上げます。意見交換会の開催にご協力いただいた参加者の方々にも大変お世話になりました。また、私は日本での生活や勉強とかの面で、色々世話してくれ、誠にありがとうございました。